

創刊号目次 (昭和二十六年三月發行)

皇后・中宮問題の解決	芝 葛盛	(1)
昭和二十三年度正倉院樂器調査概報	芝 祐泰	(10)
圖書寮本類聚名義抄出典索引	橋本不美男	(27)
書陵部官制の變遷		(51)
藏書史と新收書解説		(55)
貴重圖書の繙刻と出版		(60)
疎開から展示會へ		(62)
編修課事業概要		(69)
正倉院年報		(73)
第二号目次 (昭和二十七年三月發行)		
國忌の廢置について	中村一郎	(1)
律令制官人社會構成の一考察	野村忠夫	(15)
—— 外位制の本質と機能を中心に ——		
昭和二十五年正倉院樂器調査概報	芝祐泰・長屋謙三 瀧邊一・岸邊成雄	(28)
圖書關係事業概要		(54)
編修課事業概況		(58)
正倉院年報		(59)
附錄 正倉院古裂銘文集成 (一)		(1)

編修後記

お濠りの一隅に何となく残つてゐた薄氷が日増に小さくなる。その頃この編修も結末近いあわただしさを迎へる。去年中の各部門の成果が送り届けられるからであり、集る原稿は、普通の専門雜誌の常識では律しきれない程多種多様である。それは正倉院から陵墓も含む書陵部管掌の廣さを示してはゐるが、それによる編修の陥りがちな難しさは、私共の最も戒心してゐる所でもある。

この號は論文三篇、リポート三篇、それに正倉院年報と、前號につゞき銘文集成を附録とした。伊地知氏の論文は、所謂連歌史の定説に、連歌發生の場といふ本質的な考察から、庶民を場とする云捨の誹諧連歌こそこの正統をつぐべきものとす新見を出し、宗祇・兼載等の誹諧連歌作品を紹介し俳諧連歌抄が漸増的な成立であることを論じ、橋本氏は、康和期といふ歌合の空白期に催行された國信卿家歌合を考察し、そのもつ史的意義と、その時代に立つ俊賴・基俊二歌人の、和歌と

歌合觀に見られる當代性と前代性との乖離を究明する。橋本義彦氏は、太政官厨家の職掌・機能・構成を明らかにし、その機能成立の由來と時代的基盤に伴ふ太政官厨家領としての莊保の成立を論じたものである。

更に菊地氏は、新收した永正十年廣橋守光の日記について、その書誌と同年代に於ける室町將軍の動靜其他の興味ある問題を紹介し、大窪氏は書陵部本大般若經の松平定信による蒐集の経緯とその書誌を綿密詳細に解説し、正倉院樂器調査は、一・二號にひきつゞき五ヶ年に渉る調査の最後である昭和二十七年についての調査報告である。

以上の外、前號に引續き松島氏の正倉院銘文集成を附載して、古裂の部を完結せしめた。正倉院については、つづいて松島氏の古器物銘文集成、あるひは正倉院御物の各種調査報告を、順次發表する豫定である。猶今後もひきつゞきこの様な新資料の紹介・リポートは勿論、未刊圖書の繙刻も行ひ、研究者の要望を充したいと念じてゐる。微力な私共に大方の御叱正を心から願つてやまない。

BULLETIN

STUDY ON THE JAPANESE CULTURE IN RELATION TO THE IMPERIAL FAMILY AND COURT

No. 3. March, 1953.

CONTENTS

Waka (31-syllable ode), Renga (verse-capping) and Haikai (17-syllable verse)— “Haikai-Hyakuin” (one hundred Haikai verses) by Sōgi, and by Kensai and other books, and the consequent compilation of the “Haikai-Renga Sho” (col- lection of Haikai) By Tetsuo Ijichi.....	(1)
An Epochal Moment in the History of Uta-awase (poetic dialogue)— About a poetic dialogue party in the Kōwa period at the Hon. Kuninobu's residence and Toshiyori and Mototoshi By Fumio Hashimoto	(18)
On the Dajōkan-Chūke (an office of the cabinet in the Heian-Kamakura period) By Yoshihiko Hashimoto.....	(38)
Morimitsu Hirohashi's Diary By Yasuaki Kikuchi	(49)
The Prajñā-pāramitā-sūtra collected by Sadanobu Matsudaira (<i>alias</i> Rakuō Kō) By Tarō Okubo	(56)
Report on the Investigation of the Musical Instruments in the Shōsōin, 1952, By Sukehiro Shiba, Kenzō Nagaya, Ryōichi Taki, and Shigeo Kishibe ...	(74)
Annual Report of the Shōsōin	(85)
Appendix: Collection of Inscriptions on the Relics in the Shōsōin (2) By Yorimasa Matsushima	(18)

Archives and Mausolea Division,
Imperial Household Agency